

Web 上の人物履歴情報の地図上への表示

王 爽[†] 浦 芳伸^{††}
† 大阪市立大学大学院創造都市研究科

上田 洋^{†††} 村上 晴美[†]
†† winspire ††† ATR-Promotions

1. はじめに

Web 上で人物検索の重要性が増大しているが、ネット上では同姓同名人物が多く、人物を判別、理解するためには人物に関連する多様な情報が必要である。Facebook や Google+などの SNS では、人物が過去に住んでいた場所などの情報を手動により地図上に表示できる。これらの情報は人物を判別、理解するための有用な情報の一つとして認知、利用されていると考える。

本研究では、Web 上の人物検索における地図インタフェースの開発を目的とする。Web 上から人物の過去、現在の所在地の抽出を目指す。Web 上には住所で表された所在地はあまり存在しない。所在地として人物が一定期間いた場所が重要であると考え、人物の履歴情報の中で学歴や職歴に着目して学校や勤務先の所在地の取得を目指す。

以下、2 節では提案手法、3 節では試作したプロトタイプ、4 節では実験について述べる。

2. 提案手法

まず、上田他[1]による Web 上の人物から履歴書を作成する手法を用いて、検索エンジンで氏名を入力して該当人物の履歴書を作成する。

次に、履歴書の学歴と経歴に含まれる履歴文の中から「卒業」や「退社」などを含む履歴文を抽出し、学校名と組織名を抽出する。抽出手法の概要は以下のとおりである。

(1) 学校名

「学校」などを含む文字列からさかのぼり、名詞が連続する箇所を連結して抽出する。これにより「宇部市立琴芝小学校」などが抽出できる。

(2) 組織名

形態素解析で固有名詞の組織と判定された文字列を抽出する。これにより「衆議院」などが抽出

される。

最後に、抽出したテキストをローカルサーチにかけて最上位 1 件の位置情報を取得して、地図上に表示する。

3. プロトタイプ

人物履歴情報画面を「菅 直人」の例で試作したプロトタイプを図 1 に示す。左側に地図ウインドウ、右側に履歴(学歴と職歴)ウインドウを表示している。アイコンまたは履歴文を選択すると、情報ウインドウに履歴文と住所が表示される。

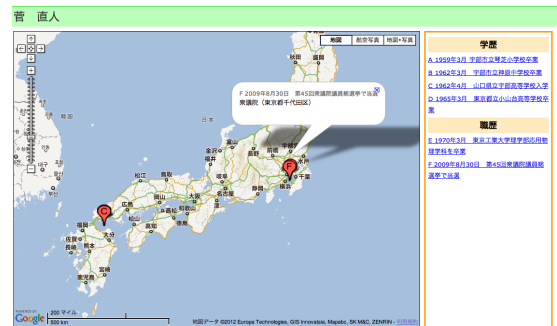


図 1. プロトタイプ

4. 実験

有名人や業界での有名人の氏名 56 を用いて、Web 検索で 50 件のデータを得て実験を行った。[1] で作成した履歴書が正しいという前提で、位置情報を抽出できるかどうか確認した。特に職歴の組織名の精度が低かったため改善案を検討した。

5. まとめ

Web 上の人物の学歴と職歴に着目して学校や勤務先の住所の所在地の位置情報を取得して地図上に表示する手法を提案した。

参考文献

[1] 上田 洋, 村上 晴美, 辰巳 昭治: Web 上の人物理解のための履歴書作成, 人工知能学会論文誌 Vol. 25, No. 1, pp. 144-156 (2010).